すたぺんドリル

小5国語　文章問題　文学②-2

日付	名前
月　日	

問題　次の文章を、まず声に出して読みましょう。その後、問題に答えましょう。

ところがふと気がつきますと、①【　　】の下の方には、数限りもない罪人たちが、自分ののぼった後をつけて、まるでありの行列のように、やはり上へ上へ一心によじのぼって来るではございませんか。かんだたはこれを見ると、おどろいたのとおそろしいのとで、しばらくはただ、ばかのように大きな口を開いたまま、眼ばかり動かしておりました。自分一人でさえきれそうな、この細いくもの糸が、どうしてあれだけの人数の重みにたえる事が出来ましょう。もし万一と中できれたといたしましたら、せっかくここへまでのぼって来たこのかんじんな自分までも、元の地ごくへ逆落としに落ちてしまわなければなりません。そんな事があったら、大変でございます。が、そういううちにも、罪人たちは何百となく何千となく、まっ暗な血の池の底から、うようよとはい上って、細く光っているくもの糸を、一列になりながら、せっせとのぼって参ります。今のうちにどうかしなければ、糸はまん中から二つにきれて、落ちてしまうのにちがいありません。

そこでかんだたは大きな声を出して、「こら、罪人ども。このくもの糸はおれのものだぞ。お前たちは一体だれに聞いて、のぼって来た。下りろ。下りろ。」とわめきました。そのとたんでございます。今まで何ともなかったくもの糸が、急にかんだたのぶら下がっている所から、ぷつりと音を立ててきれました。ですから②【　　】もたまりません。あっという間もなく風を切って、こまのようにくるくるまわりながら、見る見るうちにやみの底へ、まっさかさまに落ちてしまいました。

（芥川龍之介作「蜘蛛の糸」より）

1　【　　】①・②の中に入る言葉を、文章の中からさがして書き入れましょう。

2　―の理由は何ですか。

ア　かんだたが、何千人もの罪人たちとともに助かろうとしたから。

イ　かんだたと何千人もの罪人たちとが、争ってぶらさがったから。

ウ　かんだたが、何千人もの罪人たちを見捨てて自分だけ助かろうとしたから。